

平成 27 年 12 月 8 日

市川市長 大久保 博 様

市川市史編さん委員会
委員長 吉村 武彦

市川市史編さん事業「刊行計画」の見直しについて（答申）

平成 27 年 5 月 29 日付市川第 20150528-0140 号により諮問された市川市史編さん事業「刊行計画」の見直しについて、下記のとおり答申する。

記

1. 諮問事項

市川市史の「刊行計画」の見直しについて

現在編さん中の「市川市史」については、平成 27 年度から順次刊行を開始し、平成 32 年度に刊行を終える計画となっている。しかしながら、東京外郭環状道路（以下、外環道路）建設にともなう市内遺跡の発掘調査により新たな歴史的事実が明らかとなりつつあることから、この成果を盛り込んだ市史とすることができるよう、刊行計画を見直すことについて諮問されたものである。

2. 審議の争点

「市川市史」歴史編のうち、発掘調査が進められている遺跡との関係性が深いのは第 1 巻『地形と環境』、第 2 巻『ムラとマチ』、第 3 巻『まつりごとの展開』である。外環道路建設にともなう発掘調査の成果は今後、徐々に明らかにされていくことが考えられるが、この成果を盛り込むためには、平成 27 年度現在の段階での執筆は難しい状況にある。

このことをふまえ、外環道路建設にともなう発掘調査成果を盛り込む必要性がどの程度あるか。また、そのためには、現在の刊行計画をどのように見直す必要があるか。以上の 2 点を中心に審議したものである。

3. 主な審議内容

(1) 外環道路建設にともなう発掘調査成果を市史に盛り込む必要性について

ア. 発掘調査では予想以上の発見が相次いでおり、この成果を除いては市史を刊行する意味が薄れてしまう。刊行を多少遅らせることで発掘調査成果を盛り込むことができるのであれば、その価値があると考えられる。

イ. 歴史編はテーマ別の構成としているが、主要なテーマである国府・国分寺に関する調査がかなり進んでおり、外環道路建設に伴う発掘においても未だ公表されていない資料が出ているようだ。そのため、新たな調査成果を盛り込むために刊行を延長することは止むを得ない。

ウ. 外環道路建設に係る発掘調査のような大掛かりな発掘を行う機会はめったにあるものではないため、その成果は市史に活かすことが望ましい。

(2) 第1巻～第3巻の刊行時期について

ア. 外環道路建設に係る発掘調査成果が明らかになる時期は明確ではないが、工事の進捗状況を考えると、調査成果の公表時期もおおよその予想を立てることが可能であることから、これに合わせて刊行すべきである。

イ. 外環道路建設に係る発掘調査成果が明らかとなる時期が明確ではないとしても、各巻の刊行年度は明確に定めるべきである。

ウ. 刊行時期をある程度明確にしておかなければ原稿の執筆依頼も困難である。刊行年度は定めておき、発掘調査成果が明らかにされる時期により再度の見直しが必要となるかどうかはその都度改めて検討してはどうか。

(3) 「市川市史」第4巻、第5巻について

第1巻から第3巻の刊行時期を延期した場合、刊行計画の後半に本編の刊行が集中し、財政的にも業務的にも厳しくなることが予想される。このことから、第4巻、第5巻の刊行時期についても再検討した。

ア. 第4巻については、一年度前倒して刊行することは可能であると判断される。

イ. 第5巻については、現在までの調査等の進捗状況を踏まえると、前倒しは難しい状況であるため、現在の計画通り、平成31年度の刊行とする。

(4) その他

刊行計画見直しの一環として、新たに民俗編に係る調査報告書を刊行する必要性が提案された。

ア. 刊行計画を定めた当時は民俗編の全体像が不明瞭であったが、現在は、市内での調査成果が蓄積されはじめ、巻の構成内容も固まってきたところである。このことから本編を補完する形で報告書として作成する必要がある。

イ. 有償の調査報告書として刊行することで、学会等での書籍販売が可能となることから、本編の刊行に先立ち刊行することで民俗編刊行にむけた周知効果もある。

ウ. 報告書は2冊とし、オビシヤに関する報告書を平成28年度に、民家に関する報告書を平成31年度の前半に刊行する。

エ. 新たな報告書の刊行にかかる予算は現在想定している総事業費内での調整を視野に、必要最小限の予算で制作できるよう様々な刊行形態を検討する。

4. 答申内容

市川市史には外環道路建設にともなう発掘調査成果は、可能な限り盛り込む必要があると考えられるが、現在のところ、上記発掘調査の成果がいつ頃どのような形で公表されるのか、明らかではない。そのため、第1巻から第3巻に発掘調査の成果を十分に盛り込むことができるような、具体的な刊行時期を明示することは難しい。

しかしながら、各巻の刊行時期が明確にされない場合、刊行にむけた準備、特に、原稿の執筆依頼が困難であることから、外環道路建設工事の進捗状況を目安とするなどし、市川市として各巻の刊行時期を明示した新たな刊行計画を定めるべきである。

なお、第1巻から第3巻の刊行時期を遅らせることから、刊行計画の後半に本編の刊行が集中することが予想されるため、これを避けるため第4巻の刊行を平成30年度に前倒すことが望ましい。

また、今回、刊行計画見直しの一環として、平成28年度および平成31年度に民俗編に係る調査報告書を刊行する必要性が提案され、委員会として刊行計画に追加して盛り込むことを了承した。新たな刊行計画には民俗編の調査報告書の刊行についても追記いただきたい。

以上を答申とするが、本答申に至る過程において、各巻の刊行年度を明示した刊行計画見直し案が提示され、委員会にて検討した結果、審議内容を踏まえた見直し案であると合意したため、これを添付する。

刊 行 計 画 (見直し案)

○ 発行年 (◎見直し後)

△ 調査報告書(資料集)等発行年

平成27. 12現在

年度		75周年					80周年			85周年				
		2009 H21	2010 H22	2011 H23	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33
歴史編	第1巻 「地形と環境」						△			○	----->	◎		
	第2巻 「ムラとマチ」							△		○	----->	◎		
	第3巻 「まつりごとの展開」			▲		▲	△		○	----->	◎			
	第4巻 「変貌する市川市域」									◎	<-----○			
民俗編	第5巻 「民 俗(仮称)」							△				△ ◎		
自然編	第6巻 「自然とその変遷」							◎						
通史編	第7巻 「 」											○	-----> ◎	
写真図録「この街に生きる、暮らす」							●							
「市史研究いちかわ」		●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	